

名古屋芸術大学グループ 通信

08
October
2008

音楽がある。
自由がある。
自分の道がある。

Feature <特集>
音楽学部演奏学科/
音楽文化創造学科
音楽総合コース

Entexit

エンタジット

- 2008就職戦線 就活レポート
- 2009年度入試日程
- アート&デザインセンター
2008/2009 展覧会スケジュール

Close up! NUA-ism

~進化する「名古屋芸大」のDNA

NUA-OG

「私」という「自分」
日本画家 水野加奈子

NUA-STUDENT

すべて音楽につながってるんです
音楽学部演奏学科
ピアノコース 3年 谷田部響

News/topics

ニュース&トピックス

音楽学部

- ピアノコース 特別演奏会
「第10回ピアノコンチェルトの夕べ」
「第10回ピアノサマーコンサート」
- NAGOYA まちじゅう GA 芸術祭
NAGOYA GROOVIN' SUMMER 2008に
協賛しました
- 「飛騨・童話会議2009」に
本学が参画、共催します

美術学部/デザイン学部

- オープンキャンパス(進学編)が行われました!
- 小・中学生とシニア対象の芸術大学体験入学
「一日芸大生」が行われました
新しい自分に出会おう一日、キャンパスライフを思い切り体験!

美術学部

- 第2回「いのちときぼうのアート展part 3」
のための連続講座

デザイン学部

- 特別客員教授 祖父江慎先生のBook Design
「本の中の文字、本の中の文字」
特別講義が行われました

人間発達学部

- 特別公開講座
「これからの幼児教育を考える…幼稚園教育要領と
保育所保育指針の改訂を受けて…」が開催されました
- 羽島市児童センターの壁面を学生の作品で飾りつけ
- 日韓のわかもの意欲
昌信大学夏期セミナーにみる

大学/大学院

- 小牧市との産学官連携事業
「小牧市民ギャラリーオープン記念展」で
「名古屋芸術大学卒業制作優秀作品展」が
開催されました

クリエ幼稚園

- 第6回「クリエまつり」が行われました

滝子幼稚園

- 夏祭り

コラムNUA

2008年 ベルリン雑感
デザイン学部 教養部会教授 橋本裕明

Master Artist

マスターアーティスト

「デザイン嫌い」
デザイン学部 講師 駒井貞治

Information

インフォメーション

- 2008年10月~2009年3月までの
主な行事・イベントスケジュール
- 編集後記



名古屋芸術大学グループ

<http://www.nua.ac.jp>

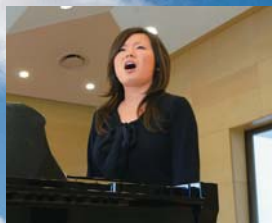
■ 名古屋芸術大学/大学院:
音楽研究科
美術研究科
デザイン研究科

学部: 音楽学部
美術学部
デザイン学部
人間発達学部

■ 名古屋保育福祉専門学校/
保育科 介護福祉科
■ 名古屋芸術大学附属クリエ幼稚園
■ 滝子幼稚園



音楽がある。
自由がある。
自分の道がある。



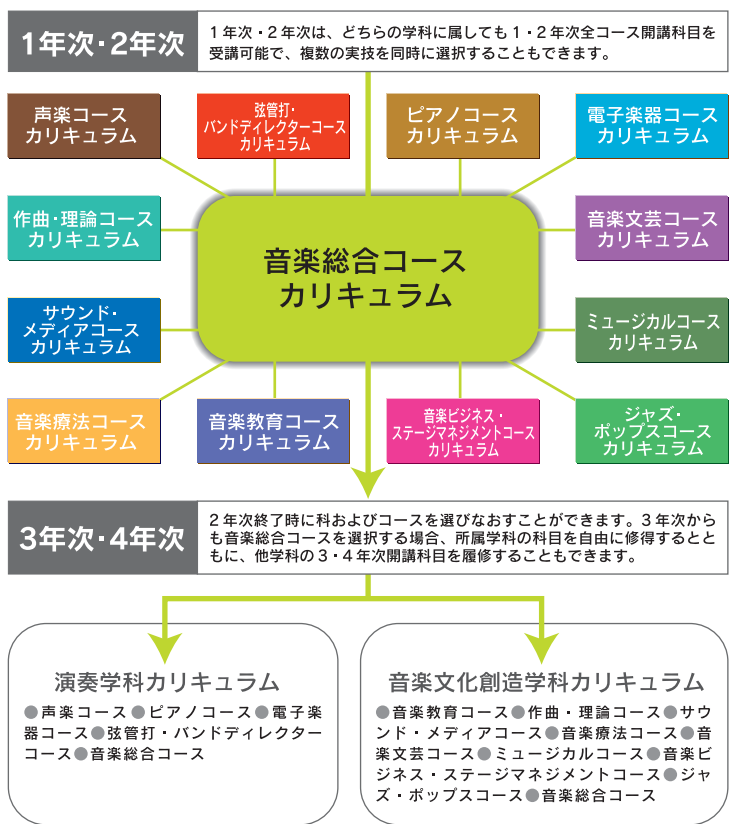
General Music Course

音楽学部演奏学科 / 音楽文化創造学科 音楽総合コース

現代では、音楽と人とのかかわり方が従来にくらべ複雑なものになってきています。

それは音楽を学ぶ者にとっても同じで、楽器を演奏するにしても、複数の楽器を練習する人が増えてきましたし、プロとして活動するためには、奏者にとっても録音技術やマネジメントの知識は必要不可欠なものとなりつつあります。そんな複雑化する音楽を総合的に学ぶことができるコースとして設置されたのが「音楽総合コース」です。1・2年では、演奏学科、音楽文化創造学科の全ての開講科目を受講することができ、3・4年では自分の希望によって、より高い専門性を身につけることもできる内容となっています。従来の枠組みを超え、自分に必要な知識と技術が身につけられるコースといえるでしょう。

今回は、この音楽総合コースにスポットを当て、担当する先生、実際に学ぶ学生の生の声をご紹介します。



二極化する専門性

総合音楽コースのコンセプト

現在、音楽を学んでいる人たちを見ると、専門性を保ちつつもう一つ別の音楽を学びたい、音楽のさまざまな分野について好奇心が強いというか、ある意味“欲張り”な方が、増えてきているようです。また、現在の高校生たちを考えれば、情報が非常に多く、その結果、何を学んでいいのか迷ってしまって決めかねている状況が以前よりも数多く見受けられます。これらのニーズに応えられるものとして音楽総合コースが設けられています。

従来、芸術大学といえば、それこそ“一芸に秀でた”に例えられる専門性の高さが信条でした。しかし、現代や未来

Concept Guidance

大学院音楽研究科教授
音楽文化創造学科長

田中 範康

を考えた場合、専門性というものも二極化していくものと考えられます。本当に一芸に秀でたという形を取るものと、音楽というものを全てを専門と捉え、その中で広く知識を持っている包括的な、いわばグローバルな専門性です。音楽に新しい分野が増え、それぞれの分野がクロスし、幅広いジャンルの音楽についての知識や、映像やプロモーションについての知識も要求されるようになってきています。音楽総合コースでは、それらに対応できるような包括的な知識を学ぶことができます。逆に、より専門を極めたいという学生も出てきていて、両方の必要性が高まっていると



思います。一芸に秀でたものを、総合的に学んだものがカバーしていくような結果としてより大きなものが得られるようになると。実際そうようになってきているように考えています。

Lecture

担当の先生に聞いてみました

音楽総合コースを担当する山田敏裕先生と
同コースを担当する非常勤職員
原田慎也さんにお話を伺いました。

大学院音楽研究科
教授

山田 敏裕



音楽総合コース担当
非常勤職員

原田 慎也



▶ 総合コースの特徴

総合的な科目は、他の大学でも徐々に始められていますが、本学のものほど自由なカリキュラムでやっているところはまだありません。本学の場合は、専門コースも自由に選択でき何ら制限もありません。

▶ 可能性を見極める

以前にくらべ今の高校生は、何をやりたいか決まっていない人が多いです。社会情勢の影響もあってか、一つの専門に決めてしまっているのか悩むことがあるようです。また、音楽は好きだけれど専門の勉強はしてこなかった、あるいは、学生のうちはやりたいことをしっかりとやって行きたいなど、総合コースを志望する高校生の実態は多様なものです。これらの人に、将来への可能性を見極めてもらうためのコースということで、総合コースのあり方を考えています。実際に、入学した学生一人ひとりの状況も希望も異なりますので、それぞれに合わせた指導・アドバイスができるように心がけています。

▶ きめ細かな担任制

何を選択してもいいということには、逆に難しさもあります。多くは「あれも、これも…」と授業を選択しようとしてしまい、パンクして

しまうことが目に見えるような取り方をしてしまいがちです。二兎を追う者は一兎をも得ず、ではありませんが、学生とよく話し合っ、ある程度やりたいことの方角性を見出して理解させながら履修科目を決めるやり方をしています。一学年50人ほどの学生を、6人の先生で受け持つ担任制を採っています。そこへ学生たちに近い窓口として担当職員も加わり半期ごとに面談をして、学ぶことの方角性を確認しています。しっかりと話し合いを重ねていきます。

▶ 自主性を育み、能力を見出す

多くの学生が履修科目の選択で悩んでしまいます。やりたいことの多さと同時に、選択した科目で卒業できるのかどうかを心配するようです。指導することの難しさは、何もかも教えるのではなく、学生の自主性を尊重すること、学生個々の可能性を見出す点にあります。学生が迷わないようにすることも大切ですが、手助けしすぎて自主性を無くしてしまわないようにする加減が本当に難しいです。また、自分が何をやりたいのかということと同時に、何に対して能力があるかを見出してあげることが最も大切なことです。こうした難しさを乗り越え、自主性を身につけた学生は、本当にイキイキとしています。

そんな姿を見るのが一番うれしいですね。

▶ 入学前にフレッシュマンキャンプ



今年初めての試みとして、入学式の前に総合コース1年に入学する学生を集めて1泊2日の「フレッシュマンキャンプ」を開催しました。先輩にあたる2～4年の総合コースの学生、担任、委員会の先生、12の専門の先生に参加していただき、説明してもらい、学生の希望を聞きながらそれぞれ履修科目を決めるところまでやってきました。総合コース単独の授業がないので、普段の学校生活では総合コースの学生だけで集まることは少ないのですが、1泊2日で学生同士のつながりも強くなり帰属意識も高まり、非常に有意義なものとなりました。今後も、毎年続けていこうと考えています。

▶ 今後の目標

企画から総合コースの学生だけで演奏会ができればいいと考えています。音楽ビジネスの学生もいるわけですから、全て総合コースだけでできることとなります。今後の大きな目標です。



中村友美さん

演奏学科 [音楽総合コース]
→音楽文化創造学科 [音楽総合コース]



栢佑典さん

音楽文化創造学科 [音楽総合コース]
→音楽文化創造学科 [音楽総合コース]



原裕樹さん

音楽文化創造学科 [音楽総合コース]
→演奏学科 [電子楽器コース]



■音楽総合コース担当の
原田慎也さん(前出)

「本当の自分が見つけれられるコース、かな」「それイイ!(笑)」

Interview

音楽総合コースの学生さんに集ってもらい、実際のところのお話を聞かせていただきました。
最初は緊張気味だった3人も、しばらくすると大きな笑顔と笑い声も。

三人三様の音楽総合コース

— 音楽総合コースを選んだ理由は？

原 「自分は、3歳のときからエレクトーンをやっていたんですが、友達とかいっしょに音楽をやっていく仲間が、エレクトーンだけに絞られてしまうのが嫌で、エレクトーンって専門性が高いんですよ、それでもっと別の世界で楽しみたいかったです。自分はエレクトーンを続けるつもりでしたけど、他の楽器をやっている人とも仲良くなりたかったんです。総合コースはいろんな楽器やってる人がいて、幅が広がって、自分が思っていた理想に近くなって思ってます。エレクトーンだけじゃない、全然違う人と話もできるし」

栢 「僕は、専門はトランペットなんです。3年からはジャズ・ポップスコースの授業を中心に履修しています。大学へ入る前に2年間、音楽の専門学校へ通って練習していたんですが、教職の免許を取りたくて大学へ入りました。トランペットですと普通の音大ではクラシックばかりだったんですよ。僕は専門学校でもジャズ・ポップスの勉強をしまして、名古屋芸大なら総合コースがあって、ジャズ・ポップスコースも受講できるというので、それで総合コースにしようって決めました」

中村 「私は、今はジャズ・ポップスコースのサクスを専攻しています。小さいときからエレクトーンを始め、また、父が持っていたサクスを遊びで吹いたりしていました。小学校では器楽部があってそこでサクスを吹く人を見て『カッコイイな』って、それからサクスも始めました。ただ、高校に入った頃は、先生に付いて習うほどサクスをやろうとは考えていなかったし、同時にエレクトーンも両立してやっていたので、将来は漠然とピアノかエレクトーンの先生になりたいと考えていたんです。でも、高校の部活でサクスを吹いている時間の方が長くなってきて自分もサクスの方が楽しくなっていったんです。高3になって受験を考えているとき、当時のエレクトーン

の先生が名古屋芸大の電子楽器コースの先生を紹介してくださってレッスンを受けたんですが、そのときにサクスとエレクトーンで迷っていることを話すと、総合コースがあるから両方やってみてどちらか選択すればいいと勧められて、決めました」

よかったこと、よくなかったこと

— 総合コースに入ってみて、よかったこととよくなかったことがあると思うけど、どんなこと？

栢 「よかったことは、授業の割り振りのことなんですけど、他のコースなら必ずココで取りなさいと決まっている科目があるんです。でも総合コースはまったく自由なので、別のコースで同じ授業があるならそっちで取って、自分のやりたいことを優先して組める。時間の割り振りが好きに取れるんです」

中村 「そうそう、器楽実習なんかも1、2年で取ったんですけど、音楽文化創造学科にプレーヤー実習っていうのがあるので、それを使ってやろうとか」

原田 「カリキュラムのシステム自体がわかれば、本当にうまく使ってしまうようにできるんですよ。そこを知るまでが大変なんですよ」

中村 「1年のときなんか、実技4つありましたもん。大変でしたよ。取り出したら止まんないよね(笑)。他のコースのいいとこだけとってカリキュラムが組めちゃう」

栢 「そうだね」

中村 「よくないことは、卒業のときの単位がややこしいことかな。教職を取る場合も、演奏学科と音楽文化創造学科とは取らなきゃいけない科目が微妙に違ったりして」

原田 「僕が担当になって最初に見た学生さんたちなんですけど、とにかくどの授業を取っていいのかわからなかったよね、自由すぎて」

原 「何回か電話しましたもんね(笑)」

中村 「原田さんの部屋へ行きましたよ、原田さんって」

原 「行った、行った、わからーんって(笑)。履修っていうこと自体、大学で初めてだし、ガイダンスで説明を聞いてもわからないのに、総合だけ別扱いで、その後、総合だけのオリエンテーションがあって、そこで先

生に聞いてやっつですもん」

一同「そうそう」

中村 「合宿があったほうが絶対いいですよ」

原 「総合でよかったことは、総合だけじゃないかもしれないけど、いろんな人がいる。コースが多くて、それで楽しいです。いろんな要素の、音楽療法とか全然違うことやってる人が集まるんで、いろんなことを見つけれられる」

栢 「普通の大学よりも人数が少ないので、大体みんなが知り合いたし、顔見知りになる。生徒間の仲がいいですよ」

中村 「私は、とにかく楽しいですね。朝から晩まで好きなことやって。学校が開いてれば日曜も来たいくらいですよ。思う存分、練習したい！」

「自分でなんとかしなきゃ」が成長させる

原 「総合って、みんなバラバラでどっかの授業を受けてて、総合としての授業がない。それが、ちょっと寂しい。会った時は、どうやったそっちの授業は？みたいな情報交換ができるんですけど」

中村 「専門の子は、専門で和ができてるじゃん。だから、合宿みたいなのはあったほうが絶対いいよね」

原田 「総合だけで一度に集まることはないんで。でもね、最初はね1年のとき、みんな大丈夫かなと心配になるんですけど、総合の子は自分の道を開いていくんだよね。ずっと心配してたんだけど、自分でなんとかしなきゃっていう気持ちが強くなるのかな」

原 「みんな必死ですよ(笑)」

原田 「本当の自分を見つめることのできるコース」
一同「それイイ!(笑)」

原田 「通常なら必修科目さえ取ってれば進級できるけど、総合コースにはそれがない。自己責任が問われるコースですね。カリキュラムにしても技術にしても。でもそれを通り過ぎて乗り越えてる子達だから、すごく自主性が発達して、とてもイキイキするように思うんです」

2008就職戦線 就活レポート

2008年度の就職活動も後半戦を迎えています。原油高にはじまった食料品など諸物価の高騰で、日本経済の減速が鮮明になった今、就職活動にも若干不安の要素が見られます。こうした中でも、活動を計画的に進め内定を決めた2人の学生に、「就活レポート=内定獲得の決め手は！」を書いていただきました。

新しい経験や出会いを楽しむこと

就職活動で内定を取る決め手は「楽しく」やること!!これが全てです!!!
就職活動を通じて、これまでの人生で経験したことのない出来事に会うことができました。「いざ、初めての就職活動へ!」と、気合を入れてみたものの「就職活動はどうやってはじめるの?」「どんな就職活動をすればいいんだろう?」など、私も疑問に思っていたことを解消できるようにお伝えしたいと思います。

まずは新しい経験を楽しみ、新しい出会いを楽しむこと!
嫌だと思いつつ、面接を受けたりして誰か採用してくれると思いませんか?

「あなたと一緒に働きたい!!」と思わせるには、就職活動を楽しむことを心がけましょう!また就職活動では、単に内定をとるだけではなく、自分自身の成長に大きく繋がるキッカケとなります。就職活動で内定を勝ち取るには自分だけでやるのではなく、周りの人と助け合いながら活動することがとても重要なのです!

しかし、誰かがずっと付きっきりで教えてくれるわけでもないので、ためらったりもするし焦ったりもするけど、悩むくらいなら全てやってしまうことです!

もちろんその中でも優先順位はつけて計画的に進めなくてはならないのですが、自分を信じて突き進んで下さい。そして、楽しむことを忘れなければどんなことでも乗り切れます!!今後も私は日々楽しみを見つけていきます!!



音楽学部 演奏学科
弦管打・バンドディレクターコース 4年
大野 智衣

3年生の前期と夏の過ごし方が決め手

3年生の4月に車のデザイナーになる決心をしました。名芸は車のデザインに力を入れていて、車のセミナーやワークショップに参加することができます。そこでは他大学の学生さんと一緒に、プロのデザイナーによるスケッチ講習を受けました。

夏休みには企業実習のインターンシップに参加し、全国の学生たちと1週間を共に過ごしました。セミナーやインターンシップに参加してよかったことは、スケッチの上達だけではなく、名芸以外の仲間に出会えたことです。この仲間とは就活の情報交換をしたり、スケッチを競い合ったり、遊びに出かけたりしました。

本格的に就活が始まると、面接会場や最終実習で再会しました。実習中、仲間はライバルになりますが、今までのようにお互いの不安や緊張をほぐし、困った時には助け合いました。その様子が企業側にも伝わったのか、これからこの仲間と一緒に働けることになりました。

最後まで1人で戦うことも必要ですが、デザイナーにはコミュニケーション能力も問われています。無理して1人で頑張らず、楽しい就活づくりを心掛けてみるのも1つの手段かもしれません。仲間は多ければ多いほど心強い味方になってくれます。つらい就活も仲間がいれば充実した楽しいものになります。

私は先輩から「3年生の前期と夏の過ごし方で今後が決まるよ。」と言われてきました。つらくて大変な夏になるかも知れませんが実力をつけてください。きっと、そこで素敵な仲間にも出会えるはずですよ。



デザイン学部 デザイン学科
インダストリアルデザインコース 4年
宮田 真実

2009年度入試日程

学部	入試種別	出願期間	試験日	合格発表日	
■ 音楽	推薦入試	10月17日~10月31日	11月 8日	11月14日	
	A日程入試	1月 5日~ 1月26日	2月 5日・6日	2月10日	
	3年編入試	1月 5日~ 1月26日	2月 6日	2月10日	
	特待生入試	1月 5日~ 1月26日	2月 6日	2月10日	
	B日程入試	2月25日~ 3月19日	3月25日	3月26日	
	B日程入試	11月 4日~11月21日	12月 6日	12月11日	
■ 大学院音楽研究科	A日程入試	11月 4日~11月21日	12月 6日	12月11日	
	B日程入試	2月25日~ 3月19日	3月25日	3月26日	
■ 美術	推薦入試	10月 9日~10月23日	11月 2日	11月 7日	
	社会人入試	10月 9日~10月23日	11月 2日	11月 7日	
	社会人シニア入試	10月 9日~10月23日	11月 2日	11月 7日	
	3年編入試・転科・転コース	10月16日~10月30日	11月 9日	11月14日	
	地域入試(浜松)	11月20日~12月 4日	12月13日	12月19日	
	A日程第一方式(七併用)	1月 8日~ 1月26日	2月 6日	2月12日	
	A日程第二方式(一般)	1月 8日~ 1月26日	2月 6日	2月12日	
	センター利用入試(前期)	1月26日~ 2月 9日	センター試験のみ	2月20日	
	B日程第一方式(七併用)	2月19日~ 3月 6日	3月17日	3月19日	
	B日程第二方式(一般)	2月19日~ 3月 6日	3月17日	3月19日	
	センター利用入試(後期)	2月19日~ 3月 6日	センター試験のみ	3月19日	
■ 大学院美術研究科	I 期入試	10月16日~10月30日	11月 9日	11月14日	
	II 期入試	1月29日~ 2月12日	2月21日	2月27日	
■ 研究生/研修生	研究生入試・研修生入試	1月29日~ 2月12日	2月21日	2月27日	
■ デザイン	推薦入試	10月 9日~10月23日	11月 2日	11月 7日	
	社会人入試	10月 9日~10月23日	11月 2日	11月 7日	
	3年編入試・転科・転コース	10月16日~10月30日	11月 9日	11月14日	
	地域入試(浜松)	11月20日~12月 4日	12月13日	12月19日	
	A日程入試	1月 8日~ 1月26日	2月 5日・6日	2月12日	
	B日程入試	2月19日~ 3月 6日	3月17日	3月19日	
	■ 大学院デザイン研究科	I 期入試	10月16日~10月30日	11月 9日	11月14日
		II 期入試	1月29日~ 2月12日	2月21日	2月27日
	■ 研究生/研修生	研究生入試・研修生入試	1月29日~ 2月12日	2月21日	2月27日

学部	入試種別	出願期間	試験日	合格発表日
■ 人間発達学部	3年編入試	10月 6日~10月24日	11月 1日	11月 7日
	推薦A入試	10月 6日~10月24日	11月 2日	11月 7日
	推薦B入試	11月11日~12月 1日	12月 7日	12月12日
	社会人入試	11月11日~12月 1日	12月 7日	12月12日
	一般A日程入試	1月 7日~ 1月26日	1月31日・2月1日	2月 6日
	センター前期入試	1月 7日~ 1月30日	センター試験のみ	2月13日
	センター後期入試	2月20日~ 3月 9日	センター試験のみ	3月18日
	一般B日程入試	2月20日~ 3月 9日	3月14日	3月18日

※実施する学科(専攻コース)の詳細及びその他の入試については学部の広報入試課にお問合せください。

アート&デザインセンター 2008/2009 展覧会スケジュール

Open/12:00~18:00(最終日は17:00まで)
日曜・祝祭日休館
(入場無料)どなたでもご覧いただけます。
お問い合わせ先/0568)24-0325(代)

会 期	展覧会名
10/10(金)~10/15(水)	大学院洋画制作展 '08
10/17(金)~10/20(月)	AB展(彫塑コース)
10/22(水)~10/29(水)	SAVE THE FILM セラチンシルバーセッション
10/31(水)~11/ 5(水)	境界から見えるモノ
11/ 7(金)~11/12(水)	中国からの風
11/14(金)~11/19(水)	幼稚園児たちのゲイジツ展
11/21(金)~12/ 3(水)	企画展 Drawing Encounter : Hannover & Nagoya
12/12(金)~12/17(水)	工芸選択コース作品展
12/24(水)~ 1/ 5(月)	冬期休館
1/ 6(火)~ 1/10(土)	日本画3年作品展
1/14(水)~ 1/20(火)	【聖母の御眠り】模写展
1/27(火)~ 2/ 4(水)	AFTER REMISEN#10 荻野佐和子+小澤輝余子
2/24(火)~ 3/ 1(日)	卒業制作展

※会期・内容は変更になる場合がありますので、ご確認ください。

Close up!

進化する「名古屋芸大」のDNA

NUA-ism



「紅い夕日を背に受けて」
2007年

「カモフラージュ」
2008年



日展制作等の大作のかたわら制作している小作品は、最近は全部“蛙”をモチーフにしている。何を考えているのかわからない表情・姿を見ていると物語が生まれ、それが自然と絵になってくる。

「私」という「自分」



Vol.9
NUA-OG
水野加奈子

1979年(昭和54年)、岐阜県生まれ。
2001年 美術学部 日本画コース卒業。
2001年 日春展入選
2002年 前田青邨日本画展入選、日展入選
2003年 日展入選
2006年 日展入選、臥龍桜日本画大賞展入選



『聖母の御眠り』模写
2007年5月～2008年5月

仏、シャロン・ジュール・ソヌヌ市にあるサン・ヴァンサン大聖堂内のフレスコ壁画の模写事業に参加。先生生徒12名とともに現地、日本で制作にあたる。2008年6月より日仏交流150周年記念にあわせて日仏両国で展覧会を巡回中。2009年1月14日より名古屋芸大アート&デザインセンターにて展覧会予定。
ホームページ：<http://fresco-nua.xii.jp/>

かった。自分を出すことが苦手だった少女にとって、初めての経験だったのかもしれない。

自分を出す＝表現することに目覚め、この瞬間から、自分の足で歩む人生が始まった。そして、好奇心の赴くまま、さまざまな絵画に取り組む今がある。似顔絵やイラストも、彼女の中では日本画と同様に大きな位置を占める。在学中にアルバイトで始めた似顔絵は、現在も続いている。「時々、日本画の技法を似顔絵で使ったら面白いかなとか、逆に似顔絵の簡単さを日本画にもう少し入れてもいいんじゃないかと思うこともあります」

自分にできること、やりたいことは、幅を広げ、「私」という自分がどこへ辿り着くか、それは今の段階では誰にもわからない。「まだまだ、やりたいことがあって、それは日本画に限らないので、どれもゆっくりとした進み方なんですけど、それが『私』かなって」彼女は晩熟なのだろう。彼女の歩みは、始まったばかりなのだ。「私」が何処へ行き着くか。わかるのは、まだ先のことだということだけ。それでいいだろう。追求め続けることが、作家の人生なのだから。

重苦しい色調、陰鬱で物憂い作品は、時に荒々しいと評されることもある。そこには、自分の心象が投影されているという。「人物を中心に描いているんですけど、自画像、半分自画像のような感じで、そのときの自分の内面を表してて。まだまだ表現としては中途半端なんですけど…」快活に話すしぐさからは程遠い。

幼い頃から引っ込み思案で、自分を出すことが苦手だった。高校時代も殻に閉じこもり、誰とも口も利かないような生徒だった。「周りの人は、すごく手を焼かしたろうと思います。何も話さない、何も反応を返さない」。少女が変わり始めたのは、大学へ進学してからだった。

「水が合ったというか、周りの影響もあつ

てですね。まわりも大体似たような感じの子が集まって来るじゃないですか、だから本当に安心して、少しずつ、少しずつ、自分が作れたというか」入学したばかりの自分を思い出すと、自身でもその変化に恥ずかしくなるほどだと笑う。それでも在学中は、絵について悩んでいた。

「景色を描いたり、風景をそのまま描いたりしていたんですけど、卒業して日展に落ち続けて…。後輩がどんどん先へ行く中、本当に落ち込んでしまつて。で、そこから自分の中でちょっと何かが変わって、そのまま、自分の心の中そのままを描けばいいじゃないかっていうふうになっちゃって。暗くてもいいじゃないって」それまでは無理をしてモチーフを探していた。「モチーフは自分の中にある」という言葉の意味を芯から理解できていな

Close up!

進化する「名古屋芸大」のDNA

NUA-ism



2007年9月、第9回日本演奏家コンクールピアノ部門で大学生の部一位、教え子も小学生の部三位に同時入賞。全国地元栃木紙もこの快挙を大きく掲載した。



コンクールの授賞式後に教え子とともに撮影した記念写真。横浜にて。

すべて音楽につながってるんです



Vol.10
NUA-STUDENT
谷田部響

音楽学部演奏学科
ピアノコース 3年



1994年の栃木県ピアノコンクールに始まり、2005年 第7回 日本演奏家コンクール 高校生の部 第1位、2007年 第9回 日本演奏家コンクール 大学生の部 第1位、2008年 第7回 アールンピアノコンクール F級 第2位…、数え切れないほどのコンクールでの受賞歴。とても21歳の青年とは思えないほどの経歴に舌を巻く。

「実家がピアノ教室で、僕も高校の頃から小学生の子を教えてまして、コンクールに出るのはそのためなんです。自分が先に出てみて、審査員がこういう傾向なんだとか、周りのスタッフがこういう感じなんだとか、調べてくるのが目的なんですよ」

実家はピアノ教室で、両親は共に音楽を教える講師。「寝床がピアノの下だった」というほどの音楽漬けの環境で育った。ものごころが付く前には、ピアノを弾いていたというのにも頷ける。しかし、御多分に洩れず、小学生の頃はあの練習嫌いだったという。それこそ、泣き泣き練習をやらされていたという。転機が訪れたのは中学になってからだった。「ピアノを習っていると、同じくらいの級とか歳の子にライバル心が生まれるもんじゃ

ないですか、中2の夏でしたね、コンクールで年下の女の子に負けたんですよ。くやしくて、帰りの電車で大泣きしたのを覚えてます」

「負けたくない」この気持ちが少年を変えたが、そのことを快く思っていないようだ。「音楽をやる上では不純ですよ。今からすれば、不純な動機だと思ってますよ」地に足の付いた考え方とその徹底振りに、表現者としての経験の豊かさが垣間見られる。

高校卒業後1年半の間、パリ・エコール・ノルマル音楽院に留学、中沖玲子氏に師事。中沖氏の勧めもあって本学へ進む。日本の音大にあまり魅力を感じていなかったというが、考えは一変した。「ピアノコンチェルトの企画もそうですが、色々なチャンスが頂けて経験ができる。そこがありがたいですね。それから、自分の考え方が決まってきたのは、教職課程を取っているのですが、ピアノとは関係ない講義を受けてなんです。大変ですけど、教職取ってよかったなと思います」

「中沖先生もよくおっしゃいますが、最終的には人間性、人としての資質が芸術に表れると思うんです。僕としては欠

けてる要素を埋めていかなきゃならないんです。最近思うことは、練習がすべてじゃないんですね。弾くこと以外にも、無限にあるんですよ」一人暮らしで家事をすることや、料理したり食べること、旅行に出かけたり、知らないものを見たり体験したり…、全てがつながっていると話す。学生でありながら多くの生徒を持つ、教わりながら教えるという立場と経験が、彼の考え方や志向をより大きく強固なものにしていったのだろう。しっかりしたその考えには、浮わつたところは微塵もない。

一人暮らしや生活のことを聞けば、青年らしい笑みがこぼれた。「他のコースとの係わり合いが、自分にとってすごくプラスになってるんですよ。声楽コースは前向き！？な連中ばかりで、ピアノにはあんなタイプはいないですよ。すごく面白くて、一緒にご飯を作って食べたり、ドライブに出かけたり…」音楽に、交友に、充実した学生生活が思い浮かんだ。

音楽学部

ピアノコース 特別演奏会 「第10回ピアノコンチェルトの夕べ」 「第10回ピアノサマーコンサート」

舞台の両袖からオーケストラのメンバーが入場し始めると、客席から拍手が沸き起こり、メンバー全員が着席すると、本日の演奏者と指揮者が一段と大きな拍手で迎えられる、いつもの開演シーンで、2008年7月9日、本学音楽学部ピアノコースの特別演奏会「第10回ピアノコンチェルトの夕べ」がしらかわホールで開催されました。今回の演奏会は、5月に行われたオーディションで優秀な成績を取めた3名の学生が出演しました。演奏学科からは学部生を代表して、3年生の谷田部響君と金田夏輝さんが、大学院からは、1年生の釣 由美さんがそれぞれ課題曲を演奏しました。本学教授古谷誠一の指揮による名古屋芸術大学オーケストラとの協奏で、最初は、谷田部響君がモーツァルトの「ピアノ協奏曲 第18番 変ロ長調」を演奏しました。第一楽章から第三楽章まで明るく華やかな曲を、すばやい両指の動きでしっかりと演奏している姿が印象的

でした。続いて、金田夏輝さんがベートーヴェンの「ピアノ協奏曲 第3番 ハ短調」を演奏しました。この曲はハ短調というベートーヴェンの調への曲で、彼のピアノ協奏曲の中でも最も愛されたポピュラーな曲でした。金田さんの激しさの中にも緊張感のある華麗な演奏に聴衆が引き込まれていました。休憩を挟んで、最後は、院1年生の釣 由美さんがサン＝サーンスの「ピアノ協奏曲 第5番 ヘ長調」を演奏しました。この曲は、サン＝サーンスの全5曲あるピアノ協奏曲の中でも人気の高い曲で、彼がエジプトに滞在したときに作曲されています。第二楽章の中に異国的な情緒が強く押し出されていて、この協奏曲が「エジプト風」と呼ばれる所以です。楽曲構成も形式的に自由になっていて見せ場や展開の多いこの曲を、オーケストラと上手に協奏しながら自由自在にこなしている釣さんの演奏に、感動の拍手が送られていました。こ

して2時間強にわたる特別演奏会(第1夜)は幕を閉じました。特別演奏会(第2夜)／第10回ピアノサマーコンサートは、8月12日(火)午後、名古屋市中区の電気文化会館ザ・コンサートホールで開催されました。この演奏会には、演奏学科ピアノコースの2008年

度の前期試験で優秀な成績を取めた学生が出演しました。1年生2名、2年生10名、3年生14名の合計26名の学生が、第1部から第3部までに別れて課題曲を演奏しました。家族や友人の見守る中、晴れの舞台で一生懸命演奏する学生達の姿が印象的でした。



音楽学部

NAGOYA まちじゅう GA 芸術祭 NAGOYA GROOVIN' SUMMER 2008 に協賛しました

2008年8月8日・9日・10日の3日間、名古屋市のだ真ん中、栄のオアシス21「銀河の広場」を中心とした隣接の7会場で、「NAGOYA GROOVIN' SUMMER 2008」が開催されました。このイベントは、名古屋市が主催するジャズ・ビッグバンドや地元出身のアーティスト中心の夏休みの音楽祭で、jazzをキーワードに、中学・高等学校のジャズアンサンブル部や吹奏楽部のライブ演奏、市民参加やプロアーティストによるライブステージなど多彩な催しが行われました。名古屋芸術大学音楽学部は、このイベントに協賛し、初日8日のメ

インステージ「オアシス21」で、在学生と卒業生によるジャズバンド(Funk Lovers Society)がライブ演奏を行いました。音楽総合コース3年生の山崎貴大君をリーダーとしたバンドで、ベース・サクソ(2人)・ドラム・キーボード・トランペット・トロンボーン・ギターとボーカルの9名による編成でした。炎天下の中、午後3時に始まったライブで、メンバーたちは一曲終了するたびに汗だくになりながらも、40分の持ち時間をフルに使った迫力ある演奏を行いました。400席近くある客席からは、団扇で暑さを凌ぎながら視聴している観客から盛ん

な拍手が送られていました。午後5時から、メインステージ東側の「愛知県芸術文化センターの連絡橋」にある特設ステージで、こちらは、ジャズ・ポップスコース、サウンド・メディアコースの学生3名によるジャズバンド(Namuami Jabutu)による演奏が行われました。ピアノの藤井浩樹君、ギターとベースの江藤ゆり亜さん、ドラムの廣中栄雄君によるセッションでした。途中、ピアノの低音が出なくなる

というハプニングもありましたが、メンバーの自己紹介やトークを交えた楽しいライブでした。この芸文連絡橋のステージでは、9日(NY Quintet)と10日(Fee Fees)も本学の学生ジャズバンドによるライブ演奏が行われました。こうして、本学音楽学部ジャズ・ポップスコースを中心とした学生達の真夏のイベントが終了しました。



音楽学部

「飛騨・童話会議2009」に
本学が参画、共催します

名古屋芸術大学は、産学官連携の一環として、岐阜県高山市の飛騨・世界生活文化センターで行われる「飛騨・童話会議2009」を共催することになりました。

本学は、2008年10月現在、地元愛知県北名古屋市をはじめ小牧市と協定を結び、産学官の共同プロジェクトを進めています。この度、岐阜県高山市の活性化と芸術文化の向上のために、来る2009年2月21日(土)に、飛騨・世界生活文化センターコンベンションホールで上演され

る「高山市民の皆さんのオリジナルミュージカル」の制作をサポートすることになりました。

オリジナルミュージカルは「眠りから覚めた眠りの森の美女」で、この秋から本格的な練習が開始されます。ミュージカルを構成する各ユニットをキャンプと称し、ダンス・歌(ソロヴォーカル)はミュージカルキャンプ、演奏はミュージックキャンプ、歌(合唱)はコーラスキャンプとして、また舞台製作は童話の森の制作チームが、それぞれ活

動を開始します。本番までの各ユニットの練習や制作は、本学の教員や学生、ミュージカル研究所の所員が高山に向き指導します。

高山市民の皆さんと名古屋芸術大学がコラボレートして、魅力的なオリジナルミュージカルを創り上げ、それを上演することにより、市民の皆さんに芸術への造詣を深

めていただくことが最大の目的です。

なお、今回の「童話会議」のほかにも本学は、高山市の各団体とは以前より、各種コンクールへの審査員の派遣、オーケストラのレコーディング、アニメ映画祭などの各プロジェクトに共催・協賛・協力をしており、今後は高山市とも協力を押し進めてまいります。



美術学部

デザイン学部

オープンキャンパス『進学編』
が行われました！

名古屋芸術大学西キャンパスの美術学部・デザイン学部では、9月14日(日)の一日、オープンキャンパス「進学編」を開催、将来はアートやデザインの道に進みたいと夢見る高校生や父兄らが集合。自分の作品を持ち寄り先生のアドバイスを受けたり、在校生の作品を鑑賞したり、体験講座を受けたりと、思い思いの時間を過ごしました。

●デザインワークショップ

デザイン学部の各ブロックが、体験メニューをそれぞれ1コース用意。じっくり考えて制作し、創造性を表現するデザインプロセスを体験しました。

●プロダクト&スペース ブロック



真空成形機でどんな風になってきあがるか興味津々

プロダクトデザイン入門では、プラスチック成型(真空成形機)を使ってトレイを制作。紙に好きな絵を描いて、それを木の板に写し取り糸ノコで切り抜きます。デザインを決めて切り抜くまで、完成作品を思い描きながら手の抜けな

い作業が続きます。

●クラフトブロック

シルバーリング制作では、アクセサリーを自分で制作するとあって一日中賑わいました。彫金や加工などの基本的な知識を学びながら、世界にひとつだけの指輪づくりに励んでいました。ペーパーメイキング制作では、赤・黄・青など色の付いた液状パルプに、さまざまな形に折り曲げた針金をくぐらせませす。その過程でカラーパルプが絡まり、オリジナルのモビールが姿を現します。

●メディア&コミュニケーション
ブロック

デジタル映像制作では、コンピュータを使ってアニメーション制作講座を開催しました。コマ割りを考えながら、角砂糖やマッチ棒などを素材にして一コマコマ画像を撮りつけていきます。毎回、未来はアニメーション作家！という出来映えが続出しています。

●ライフスタイルブロック

ライフスタイルブロックでは、「デザインを学ぼうとする人たちに」と題してスライドレクチャーを行

いました。現代社会のデザインやその方向性などについて、多数のスライドを使ってわかりやすく解説しました。参加者はうなずきながら見入っていました。

●名古屋芸術大学教員による持参
作品へのアドバイス

デザイン学部の相談コーナー

参加者は自分の作品を持ち込んで、それぞれの専門分野の先生から講評やアドバイスを受けました。将来の進路についてや専門の取り方や勉強の仕方などについてなど、美術やデザインの分野に関するさまざまな質問に、各先生方は丁寧に応じていました。

●大学情報相談コーナー



就職コーナー

大学情報相談コーナーでは、進路・入試相談、就職コーナーがオープン。芸術大学への進路や入試について、不安に思っていることは何でも質問！ベテランの先生が親身に答えました。また、さまざまな資料が揃っているの、閲覧しながら進路

や就職について相談する参加者が次々と訪れました。

●在校生の作品展



数々のアート作品を学内に展示

学内のあちこちに在校生の作品が展示され、足を留めて鑑賞する人も。夢のある作品、力強い作品、創造性を刺激される作品など多数が展示され、高校生らは大いに夢を育てていました。

●キャンパス放送局もオープン！

オープンキャンパスが開催された一日、「キャンパス放送局」ではスケジュールや見どころを放送するとともに、学内を回って参加者にインタビューを行うなど、高校生生の声を伝えました。

●私についてきて！



在校生の受付スタッフはみな笑顔！

オープンキャンパスでは、キャンパスツアーとして学内の見学も行われました。美術学部見学コース、デザイン学部見学コースに分かれ、在校生の引率で約1時間かけて回りました。

美術学部

デザイン学部

小・中学生とシニア対象の芸術大学体験入学 「一日芸大生」が行われました 新しい自分に出会おう一日、キャンパスライフを思い切り体験!

2008年7月21日の祝日、名古屋芸術大学の美術学部・デザイン学部で小・中学生と保護者、50歳以上のシニアを対象に、芸術の体験入学イベント「一日芸大生」が開催されました。参加者は約200名、12のコースからそれぞれ体験したい「芸大生」を選んでキャンパスライフを体験しました。夏休みに入ったばかりの一日、西キャンパスは大勢の子ども達で賑わいました。

午前10時の入学式からスタート。名古屋芸術大学学長のウェルカムスピーチに続き、学部長、講師、チューターが紹介されました。授業は、10時30分から12時、昼食を挟んで午後1時から4時までのスケジュールで、丸一日かけて行われました。

以下の12コースで行われました。

●「写ガール」…洋画コース/対象:小・中学生
女性モデルをデッサン、アクリル絵の具で彩色。古雑誌を使った「コ

ラージュ」にも挑戦しました。

●「日本画入門」…日本画コース/対象:小・中学生

鳥のはく製をモデルに和紙、墨、岩絵の具などの日本画の材料で絵を描きました。

●「消しゴム版画」…版画コース/対象:小・中学生

彫刻刀を使って消しゴム版画を作りました。

●「顔・彫刻」…彫塑・立体造形コース/対象:小・中学生

テラコッタ用の粘土板で、自分の顔を作成しました。

●「アニメーション」…メディアデザインコース/対象:小・中学生
パソコンで、コマ撮りアニメづくりにチャレンジしました。

●「編集者体験」…デザインマネジメントコース/対象:小・中学生
雑誌を作成。校内で取材し、パソコンで編集作業をしました。

●「プロダクトデザイン入門」…インダストリアルデザインコース/

対象:小・中学生

好きなデザインの型をバキュームフォーム(真空成形機)でつくり、その型にゼリーを作りました。

●「テキスタイルデザイン」…テキスタイルコース/対象:小・中学生

牛乳パックを砕いてパルプ液をつくり、紙漉きや色のついたパルプ液で絵を描いたりしました。

●「ガラスアート」…工芸コース/対象:中学生、保護者

ガラス作品づくり。

●「ジュエリーデザイン」…ジュエリーコース/対象:中学生、保護者
シルバージュエリーづくり。

●「美術史」…美術文化コース/対象:シニア

「一目でわかる西洋美術史」として、中世からバロックまでの聖母子、ヴィーナスの図像学、ルネサンス

から近代までの風景表現の変遷について講義が行われました。

●「陶芸」…陶芸コース/対象:シニア

「帽子を作ろう」というテーマでの陶器づくりをしました。

一日授業を体験した後は、完成した作品を持って体育館に集合、午後4時15分から卒業式が執り行われました。各コースのチューターから授業の様子などの報告があり、参加者が熱心に取り組んだこと、子ども達の発想の豊かさ、今後もっと作品を作りたいという参加者の声などが紹介されました。

最後に、学長から参加者の代表に卒業証書が授与され、それぞれのコースで記念撮影をして、一日の体験を終えました。



美術学部

第2回 「いのちときぼうの아트展part 3」 のための連続講座

7月17日(木)午後4時30分より、B棟2階講義室にて、ホスピス・緩和ケア病棟に入院するがん患者さんの病室などに飾る作品制作をするための連続講座「いのちときぼうの아트展part 3」の第2回目が開催されました。

今回は、「看取り」について聞く～アート展が必要なわけ～をテーマに、ホスピス研究会OKAZAKI主宰の金田亜可根さんにお話をいただきました。

1年生から大学院2年生までの21名の学生と6名の教職員及び3名の学外の方が出席し、身近な人をおいて亡くす現実、看取っていくこと、欧米のホスピスの紹介な

どをしていただきながら、「part 2」で制作した作品を今度飾ることになっている愛知病院緩和ケア病棟の様子などを紹介していただきました。また、昨春ギャラリストの夫をがんで亡くされた鴨下泰子さんが自らの経験を語ってくださり、患者さんと家族のための闘病経験共有サイト ライフパレットの担当スタッフの今村美都さんも活動報告をしてくださいました。

今後、11月25日(火)～30日(日)まで岡崎のギャラリー葵丘で開かれる展覧会、名古屋掖済会病院緩和ケア病棟の病室プレートデザイン、愛知病院緩和ケア病棟への作品飾り付け、2009年11月に名古屋国際

会議場で開かれる「死の臨床研究会全国大会」での展示・発表に向けて、学生が継続して進めるための実行委員を募り、4名の学生たちが名乗りをあげたり、患者さんがポストカードなどに使うための消しゴム版画作りを現在進行形で行っており、新たな動きが始まりました。

連続講座の第3回目以降の予定は右記の通りです。

美術学部版画コース/
アートクリエイターコース
准教授 西村正幸

●第3回「緩和ケア・ホスピスって何？」

開催日時:2008年10月9日(木)
16:10-17:35

開催会場:B棟2F視聴覚教室
講師:渡辺正さん(緩和ケア医師・東海中央病院長)

●第4回「いのちによりそって～終末期の患者さんの思い」

開催日時:2008年10月30日(木)
16:10-17:35

開催会場:B棟2F視聴覚教室
講師:伊神妙子さん(愛知国際病院ホスピス音楽療法士)



金田亜可根さん



今村美都さん

デザイン
学部特別客員教授 祖父江慎先生のBook Design
「本の中の文字、本の中の文字」
特別講義が行われました

2008年6月27日、梅雨の中休みのような青空が広がる午後、本学西キャンパスB棟大講義室にて、ブックデザイン界で独特の個性を放つ祖父江慎氏(デザイン学部特別客員教授)の講義が開催されました。

午後1時には、講義室にあふれんばかりの学生が集まり通路や床に座る学生が出るほどとなりました。祖父江氏が登場すると歓声が上がリ、熱気に包まれながらの講義がスタートしました。

まずは、自身の作品を紹介。「真夜中の弥次さん喜多さん」「ヒゲのOL」「流星課長」など多摩美術大学時代からの友人である漫画家のしりあがり寿氏の作品の装丁(ブックデザイン)を数多く手がけています。

糸井重里氏作品「言いまつかい」では、画期的な装丁を披露。カドが丸く表紙に穴が空けられている、裁断が斜めなど、これまでの装丁の概念を超えているものでした。祖父江氏はこれら常識を覆すよう

なデザインの紹介を通して、本のデザインについて説明。カバー、表紙、見返し、扉などの構成について述べ、使用する紙やデザインする際に必要になる本のフォーマット、造本計画案、台割など、時折、思いつきやユーモアを交えながら話しました。

デザイナーとして大事なことは、何にでも“うっとり”できる我を忘れる境地に身を置くことだそうです。うまくいかないとき“困った”ではなく“ヤッター!”と思うことがコツであるとも。また“だいたい”も大事なことで、ちょうどいい“だいたい”を探す力をつけなければならぬと話しました。思いついたデザインのまま余白や色などのバランスをとらない状態がよく、きちんとするほどコミュニケーションがとれない(人を寄せ付けない)形になり、威圧感が出ると話します。

また、デザインには、自分の目と判断力が大事で、一般的な意見ではなく、自分が良いと思ったらそ

れを伝えるにはどうすれば良いかを常に考えてほしいと言います。自身の学生時代を振り返り、20代の頃はきちんとしたデザインを追求し、それから“だいたい”の世界を追求してほしいとも。生き物やモノの形に敬意を持ち、良いものをつくってほしいと学生にエールを送りました。

特別講義終了後は、会場を移してデザイン棟(X棟)2Fでウェルカムパーティーが開催されました。祖父江氏が現れるとサインを求める学生が殺到、サイン攻めにあう光景が見られました。プロのブックデザイナーと間近に接すること

また、日を改めた7月11日、本学

西キャンパスU棟デジ工房にて、祖父江先生による第1回目のワークショップが行われました。デザイン学部メディアコミュニケーションデザインコース「デザイン実技II」の授業を兼ねたもので3回連続のワークショップ(授業)の初回でした。学生が一人ずつ、自身の選んだ本を紹介、新たに製作する本の装丁やデザインのアイデアを発表し、それに対して祖父江氏がコメントする形で進められ、ワークショップの最終目標は、一人一冊の本を作ることとなります。学生が順次プレゼンテーションする合間に、祖父江先生からは本の装丁やデザインに関連する知識が解説講義されました。

人間発達
学部特別公開講座「これからの幼児教育を考える…
幼稚園教育要領と保育所保育指針
の改訂を受けて…」が開催されました

2008年8月9日(土)、愛知県女性総合センター(ウィルあいち)大ホールにおいて、人間発達学部の特別公開講座が開催されました。

本学人間発達学部では、研究活動の一層の推進を図るとともに、地域に開かれ、地域に貢献できる学部を目指して、本年4月に「人間発達研究所」を設立しました。このたびの特別公開講座は、人間発達研究所事業の一つとして開催されたもので、講師に大妻女子大学の柴崎正行先生をお招きして、「これからの幼児教育を考える…幼稚園教育要領・保育所保育指針の改訂を受けて…」というテーマで講演をいただきました。

太田悦生人間発達学部長による開会の挨拶、講師紹介の後、公開講座が始まりました。

柴崎先生は冒頭に、「今回の幼稚園教育要領と保育所保育指針の改訂は、非常に大きな意味がある」と、幼稚園教育要領と保育所保育指針の改訂に深く携わって来られた立場から、改訂の背景やその意義などについて詳しく解説されました。第一に、乳幼児期は「人格形成の基礎を培う時期」であることが平成18年に改正された教育基本法に明確に示されたこと、第二に、平成19年6月に改正された学校教育法で、幼稚園が最初に位置づけられ、幼稚園は「義務教育の基礎」であり、

その後の教育の基礎を培うものである点が明確にされたこと、第三に、保育所保育指針が幼稚園教育要領、学習指導要領と同時に一貫性をもって示されたことが挙げられました。

続いて、その改定の中身について、一つ目は「身体を動かすことの大切さ＝外遊びをしてよく身体を動かすこと」、二つ目は「規範性を身に付けること＝集団のルールはお互いが気持ちよく生活すること」、三つ目は「協同性の獲得＝皆で力をあわせること」が具体的事例を

交えてわかりやすく説明され、これらの体験が小学校の学習に繋がり、幼・保と小学校の先生がお互いに交流していく、幼保と小学校の「接続」の意義であること、そのほか、「子育て支援」の意味についても触れられ、子どもの視点を疎かにしてはならないことが強調されました。

800席の大ホールは、本学人間発達学部の学生や県内外の保育所及び幼稚園の関係者で埋め尽くされ、1時間半にわたる講演でしたが、熱心にメモをとる姿がみられました。



人間発達学部

羽島市児童センターの壁面を 学生の作品で飾りつけ

人間発達学部子ども発達学科の「造形実技1」を受講している学生49名がペアを組んで、自ら設定したテーマに基づいて制作した作品を、羽島市児童センターの幼児室や図書室の大きな壁面に、隔週ごとに飾りつけをしています。

この催しは、「造形実技1」の授業を担当している福岡龍太講師の

指導で、学生達に、教育実習以外の場面で幼児や保護者とのふれあいを持つことを目的に行われています。

本年5月の連休明けから始まったこの企画は、11月22日まで行われる予定です。学生達は、作品の飾りつけをするだけではなく、子どもたちとゲームやリズム体操をして遊んだり、紙芝居を見せてあげ

るなど様々な試みを展開しております。最近では子どもたちやその保護者が、作品の飾り付けに来る学生を楽しみに待っていてくれるとのこと。

地域の子どもたちに夢や楽しみを与え、学生にとっては社会現場での貴重な体験となるこの催しは、一石二鳥で、大きな成果を挙げることになりそうです。



人間発達学部

日韓のわかものの息吹 昌信大学夏期セミナーにみる

昌信大学との学生交流は、人間発達学部が開校する以前の短期大学部で学術交流協定を結んでおり相互交流が行われてきましたが、人間発達学部としては初めてのこととなります。引率教員として参加するだけでも大変緊張しました。しかし、そんな緊張は、釜山の空港に着き、出迎えに来ていただいた観光日本語学科長 李 相振氏をはじめ学生たちの明るくて人なつこい笑顔を一目見ただけで、吹き飛んでしまいました。移動するスクールバスの中は、10年来の旧友と会ったような、心地良い雰囲気がいっぱいになりました。

歓迎式典には学長がご出席くださり、我が身の置き場を探さねばならない程、歓迎のことばをいただき、

セミナーへと続いて行きました。

研修では幼稚園見学ができました。幼稚園は、山肌に合わせるようにして園舎が建てられ、畑やプール、そしてちょっとしたテラス風の庭があり、日本の幼稚園のように、園舎と運動場、運動用具というような、画一的なものではありません。園内も日本とは異なり、日本風に言えば「危険がいっぱい」と言えます。調理室では、子どもたちが包丁を使えるようにしてありますし、電子調理器をも使えるようになっています。もちろん、日本の幼稚園と同じように、子どもらの作品が展示してあったり、教師らの飾り付けがいっぱいあります。園長であり創立者でもある方は、美術教育と幼児養育を長年やってこられた方で、当日はお話を

伺うことはできませんでしたが、教頭職の方から「園長の人生そのもの」というこの幼稚園の教育実践を聴くことができました。また、実践の年報や子どもらの作品で飾ったカレンダーなど、心のこもったプレゼントもいただきました。この幼稚園の教育実践をしっかり分析する価値があるのでは、と思わせました。

大学に帰れば幼児教育学科の科長から、韓国の幼児教育の全体像について、教育者が高く評価されながら、保育士が評価されない現状などを含めてのレクチャーがありました。

セミナーのプログラムは、堅いことばかりではなく、夕方の歓迎会、

世界遺産見学、国連墓地墓参等と多彩で盛り沢山の内容でした。学びと共に、日韓両国の学生の交流の場となって、今後の両国の親密な関係発展に寄与できるようになるのだろうとつくづく感じるところでした。

初めに感じた心地良い雰囲気は、昌信大学を後にし、空港で科長はじめ通訳を務めてくれた学生らと別れるまで変わりませんでした。そして、これからも夏期セミナーに参加した人間発達学部学生の心に残り良い影響を与え続けることでしょう。

人間発達学部子ども発達学科
専任講師 加藤 暢夫



Column NUA No.5

2008年 ベルリン雑感

デザイン学部 教養部会教授 橋本裕明



長い間、(保守的だが)開放的で田舎っぽいドイツ南部のバイエルンに親しんで来た人間にとって、ゴリゴリの官僚主義を思わせるプロイセンには強い抵抗感があり、またその中心である常にドイツ史の大舞台となるベルリンも、ナチスの悪霊に取り憑かれた大都会と

して敬遠の対象であった。それでも今年はいよいよ覚悟を決めて、デュッセルドルフからICEに乗った。地球温暖化に警鐘を告げる象徴的存在として、今評判の白熊の「クヌート」を見るためではない(もちろん見たいけれど、残念ながらもはや可愛くない成獣であった)。いわ

ばナチス犯罪を徹底的に裏いてきた作家のグラスが、実は親衛隊隊員であったことを告白した長編小説「玉ねぎの皮をむきながら」を2006年に刊行したからだった。ベルリンを必ずしもナチスと結びつけることはないが、シュプレー川北に帝国水晶の夜に破壊されたシナゴークがあり、川南に現在はユダヤ博物館が立ち、膨大な資料を展示しているこの町は、ドイツ統一の象徴的祝祭を終えた後も、変わらず呪われた地であっ

た。EUを牽引する開かれた国家であることを示そうとして議事堂の天井をガラス張りにし、国際線列車の通りややはりガラス張りの美しい中央駅を設けながらも、議事堂の横にユダヤ人の犠牲者の墓列のモニュメントを設置せざるをえない苦渋が語られている。

アドルフは「アウシュヴィッツ以後に詩作することは野蛮だ」という言葉を残したが、東洋の辺境の地でドイツ文学を専攻している人間にとっても、

大学 大学院

小牧市との産学官連携事業「小牧市民ギャラリーオープン記念展」で『名古屋芸術大学卒業制作優秀作品展』が開催されました

小牧市まなび創造館(愛知県小牧市小牧3丁目555 ラビオ4階)内に、小牧市民ギャラリーがオープンしました。このギャラリーのオープン記念イベントの一つとして、8月2日(土)から8月14日(木)まで、名古屋芸術大学卒業制作優秀作品

展が開催されました。この展覧会は、小牧市と本学及び近隣の大学との産学官協同プロジェクトの一環として実現したものです。

作品展では、本学美術学部及び版画選択コースの2000年度から2007年度までの卒業制作作品の内、

日本画7点、洋画8点、彫塑・造形・工芸(陶)・工芸(ガラス)各1点、版画3点、合計22点の優秀作品が展示さ

れました。

期間中は、大勢の方が訪れ、熱心に作品を鑑賞されていました。



クリエ 幼稚園

第6回『クリエまつり』 が行われました

恒例となった『クリエまつり』。6回目となる今年は、9月1日に大学のテニスコートで行いました。参加した子どもたちは、年長児の描いたホテルの絵がデザインされたクリエ幼稚園特製「うちわ」をもらいました。

音響は、音楽学部サウンドメディアの方々にお願ひし、大学和太鼓部の方々による迫力ある和太鼓の演奏でオープニングとなりました。また、大学のリズム体操部の方々も浴衣を着て参加し、子どもたちと一緒に踊ってもらいました。当

日は、園児とお家の方々、弟や妹たちそしてお兄ちゃんお姉ちゃんたちも来て、とてもにぎやかな「クリエまつり」となりました。『ごきげん音頭』『北名古屋音頭』など、みんなと一緒に全8曲を踊り終え、とても楽しい

ひと時を過ごしました。

来年もまたみんなで踊りましょう！



滝子 幼稚園

夏祭り

8月23日(土)に滝子幼稚園の夏祭りが行なわれました。当日は残念ながら雨が降ってしまったのですが、かわいらしい浴衣を着て、たくさん子どもたちが参加してくれました。

まず各保育室のゲームコーナーをまわります。わなげ・おかしつり・お楽しみゲーム・うでずもう…そ

の中でも人気だったのは2階ホールのおぼけやしき！ずら〜と順番待ちして、「ちょっとこわ〜い…でもちょっと楽しみ！」。出てきた子ども達は一様に涙顔…今年のおぼけやしきはすこ〜怖かったようです。

その後名古屋保育・福祉専門学校の3階体育館に移動しました。

「窯っ鼓座」の皆さんによる太鼓の演奏を見たり、年長さんが実際に太鼓をたたかせてもらったり…とても楽しく時間が過ぎていきました。盛り上がりが高潮をみせる中、いよいよ練習してきた盆踊りです。全学年で踊るアンパンマン音頭から始まり、年少さん「ハムちゃん音頭」・年中さ

ん「ポンチャラリン音頭」と続きました。今年が幼稚園最後の夏祭りとなる年長さんは掛け声も勇ましく、立派に踊ることができました。



ゲームコーナー



盆踊り

このナチス問題を度外視して、中世の宮廷文学やゲーテ・シラーの古典文学、ハイネやアイヒェンドルフのロマン派に飛び込むことはできない。それだけ12年間の暗黒時代は影を落としている。ドイツ文化の最盛期に浸っても、この圧倒的な陰の力がつねに寄り添っている。

十数年前に、研究休暇をとって中世の古都レーゲンスブルクに住んだ。そこからゼミに出るためにミュンヘン大学に通う道すがら、初冬の書店のウイ

ンドウには一面、子どもの手を大人の手が引き上げようとする絵の本が並べられていた。そう、キニーリーの「シンドラーのリスト」の独訳本であった。これは親類や民族の苦難を忘れずにいたいと撮ったスビルバーグ監督によって、翌1994年に公開された。この映画は、レーゲンスブルクのユダヤ人街に程近い場末の映画館で観たが、ポップコーンを頬張っていた腕白なドイツ人の少年たちも数分後には押し黙り、終演後には

目頭を押さえていたのを覚えている。町を散策していて、戦後にシンドラー自身が住んでいた住居を偶然発見したり、郊外の公園を散策していたときに迷い込んだ墓場で、「〇〇は194×年にテレージエンシュタットで虐殺された」というような文字が掘り込まれた多くの墓を見つめ、この問題は永遠に終わらないのではないかと思った。ランズマン監督の「ショアー」はさらに徹底的にこのユダヤ民族の悲劇を伝えており、そ

の歴史的現実の病根を抉り出した。

1994年の1月、ドイツ人の知り合いとブラハを訪れたとき、昼食をとりうとシナゴークの近くのレストランに入った。老齢のシェフは彼女を見て、「私どもにはドイツの方にお出しするものではありません。帰ってください」と英語で吐き捨てた。ユダヤ人経営の店だったのである。迫害された人々の記憶と怨念は消えることはない。



マスター ↑↓to アーティスト



【第5回】

<デザイン嫌い>

駒井 貞治

デザイン学部 講師



- 1968年 (昭和43年)大阪府生まれ
- 1990年 京都府立大学住居学科卒業
- 1990～95年 建築環境研究所
- 1996年 駒井貞治の事務所開設
- 1998年 「借家生活」第17回SDレビュー入選
- 1999年 「今月の吉村家」第18回SDレビュー入選
- 2001年～ 京都造形芸術大学ほか非常勤講師
- 1999年 「今月の吉村家」
- 2000年 「浮遊代理店」
- 2001年 「建売/完建住宅01」池田邸
- 2002年 「借家生活、3」

研究室の中には、桧の角材がたてよこに組まれている。角材は、個人のデスクと打合せのできる大きなテーブルをパーティションで隔て、部屋の壁面に巡らされたものは棚となっている。木の香りで満たされ、外から見える以上に居心地がいい。スペースは有効に活かされていて、デスクは区切られた枠の中、その上部は物置となる。デスク周辺の適度な圧迫感と密度感は、そこがパーソナルなスペースであることを自然と主張し、なおかつ、何故か子供の頃に憧れた「秘密基地」のようなワクワクとする感情を呼び起こさせる。しかし、この無骨な角材、一般的な「建築」や「デザイン」といった言葉から触発されるイメージからは程遠い。



「デザインという言葉が嫌いでした。大学卒業後、吉村篤一／建築環境研究所に勤務、建築家として順調なキャリアをスタートさせた。しかし、半年もすると心の中に迷いが生じた。家を建てたいという妹夫婦が自分のものへは依頼に来なかった。「お兄ちゃんが行ってる事務所は、一部選ばれた人のための家でしょ。高いし、こだわりがすごくある人じゃないと頼めない」。高校からの友人も同じことを言った。「敷居が高い」。

二人の言葉はあまりにも重かった。友達や兄妹に頼まれないようなことをやっていることに疑問は膨らみ続けた。庶民のための物じゃない建物、そしてデザイン。「入って1年くらいは、自分で言うのもなんですが、いいものを作っていましたよ。作ると必ず雑誌に載るんです。でも、自分はデザインの手前にあるものをもって大切にしたいと。大学に入る前から興味があったことでしたし…。5年間勤めたところで設計事務所を辞めてしまう。そして、建築の世界から離れようと決意したという。

仕事から離れると、自分の興味のあること、やりたいことが明白になった。自分が高校生だった頃、勉強を



「借家生活3」

倉庫の中に角材でフレームを組み、自宅兼事務所に。道路に面したギャラリー、その隣には事務スペース、上段は子供たちのスペースとなっている。『新しい住まいの設計』掲載 垂見孔士 撮影



『ワールドフォト
プレス MEMO』
掲載 高原秀 撮影



「池田邸」

建築条件付き宅地の物件を購入した妹夫婦の家。建築条件付きとは、指定の建築業者と契約する条件が含まれる宅地のことで、通常、設計の自由度はかなり少ない。施工の条件を満たした上で、使いやすい快適な住宅を実現した。『TOTO通信』掲載 傍島利浩 撮影

前写真 a :
西キャンパス中庭に学生と建設したツリーハウス

教えてくれた塾の先生のことを想い出した。勉強嫌いで成績も芳しいものでなかった自分に、いろいろな勉強方を見せてくれた。そして自分に合った方法を見つけることができた。勉強が嫌いじゃなくなると同時に、勉強のやり方を考えることが楽しくなった。駒井少年には、そのやり方がマジックのように魅力的に映った。その記憶もあって、自分も同じように誰かのため方法を探る役割を果たしたいと考えた。「やりたいのは、人に合わせてやり方を考える喜び、いい点を取ったりするのはおまけで、そのプロセスを味わえる仕事だったんです」。そんなことを胸に職を探した。塾の講師、出版関連…、しかし採用される筈もなかった。その分野に何

の実績も持たない者が、気持ちだけで職を与えられるほど甘くはなかった。そして、そんなことをしているうちに、はたと気が付く。「建築でいえば、施主がいてそれにピッタリの箱を作る。それで100点。箱につられて中身が変わっていくようなことになれば120点の住宅ができる。あれっ、ちょっと待てよ(笑)、俺のやりたいことは全部入っているじゃないか！」

飛び出した設計事務所の師に謝った。自分の未熟さを悟った。その上で、自分の考えに基づき、新たに自身の事務所を開いた。一握りの人のためではない、必要とする人全てのための設計。建築家としての出直しは、強い信念に裏打ちされたものとなった。

そして以降発表する作品は、強固なオリジナリティと利便性を併せ持ち、その都度、注目を浴びることとなる。そして何より、その建物のユーザーの満足度が高いものになっていった。どの作品からも、そこへ住まう人の生き活きとした表情や生活が、容易に浮かんでくる。

「かっこうの悪いものは作らないけど、デザインが主ではないんですよ」。柔和な関西訛りでこともなげに発せられる言葉。設計事務所に勤め、デザイン恐怖症になるまで、文字通り、寝ないでデザインを考えていた時代を経て、たどり着いた。あまりにも重い言葉だ。カタチよりも優先するもの、デザインというものの本質がそこにはある。

2008年10月～2009年3月までの主な行事・イベントスケジュール

音楽学部

- 研究生特別演奏会
10月31日(金) 18:00開演予定
電気文化会館 ザ・コンサートホール
- 第16回 ピアノのタベ
11月6日(木) 17:30開演予定
電気文化会館 ザ・コンサートホール
- 第31回 定期演奏会
11月13日(木) 18:00開演予定
しらかわホール
- 名古屋芸術大学スペシャルコンサート
～コンチェルトのタベ～
12月4日(木) 18:30開演予定
しらかわホール
- 第27回 室内楽のタベ
12月9日(火)・10日(水)
両日とも18:00開演予定
しらかわホール
- 電子楽器コース演奏会
12月11日(木) 18:30開演予定
熱田文化小劇場
- 2008年度 音楽企画(6)
"ザ・ルネッサンス21"
12月16日(火) 18:30開演
しらかわホール
- 冬期音楽講習会
12月24日(水)～27日(土)
本学東キャンパス
- 平成20年度 研究生修了演奏会
2月12日(木) 18:00開演予定
電気文化会館 ザ・コンサートホール
- 大学院音楽研究科特別演奏会
2月13日(金) 18:00開演予定
電気文化会館 ザ・コンサートホール
- 第7回 歌曲のタベ
2月14日(土) 18:30開演予定
電気文化会館 ザ・コンサートホール
- 第13回 春のコンサート ピアノのしらべ
2月21日(土) 17:30開演予定
電気文化会館 ザ・コンサートホール
- 第36回 卒業演奏会
2月25日(水)・26日(木)
17:30開演予定
電気文化会館 ザ・コンサートホール
- アンサンブル・フィラルモニク・ア・ヴァン
第10回 定期演奏会
2月27日(金) 18:30開演予定
愛知県芸術劇場 コンサートホール

- 大学院音楽研究科 第11回 修了演奏会
3月3日(火)・4日(水)・5日(木)
3日間とも18:30開演予定
しらかわホール
- ミュージカル公演
「Pretty Mighty Jeanne!
～オルレアンの聖少女～」
3月13日(金) 18:30開演予定
3月14日(土) 14:00開演予定
名古屋市青少年文化センターホール
- 第31回 オペラ公演
「カヴァレリア・ルスティカーナ」
3月18日(水) 18:30開演予定
中京大学文化市民会館 プルニエホール

美術学部 デザイン学部

アート&デザインセンターの展覧会スケジュールを含む

- 大学院洋画制作展 '08
10月10日(金)～10月15日(水)
本学西キャンパス A&Dセンター
- AB展(彫塑コース)
10月17日(金)～10月20日(月)
本学西キャンパス A&Dセンター
- SAVE THE FILM
ゼラチンシルバーセッション
10月22日(水)～10月29日(水)
本学西キャンパス A&Dセンター
- PAUL PRIESTMAN デザインワークショップ
10月30日(木)～10月31日(金)
本学西キャンパス X棟
デザインレクチャー
11月1日(土) 13:00～
本学西キャンパス B棟
<同時開催>
Paul Priestman Small Exhibition
11月1日(土)～11月14日(金) X棟ギャラリー
- 境界から見えるモノ
10月31日(金)～11月5日(水)
本学西キャンパス A&Dセンター
- 中国からの風
11月7日(金)～11月12日(水)
本学西キャンパス A&Dセンター
- 幼稚園児たちのゲイジツ展
11月14日(金)～11月19日(水)
本学西キャンパス A&Dセンター
- Drawing Encounter:
Hannover&Nagoya ('08年度企画展)
11月21日(金)～12月3日(水)
本学西キャンパス A&Dセンター
- 工芸選択コース作品展
12月12日(金)～12月17日(水)
本学西キャンパス A&Dセンター

- 日本画3年作品展
1月6日(火)～1月10日(土)
本学西キャンパス A&Dセンター
- 「聖母の御眠り」模写展
1月14日(水)～1月20日(火)
本学西キャンパス A&Dセンター
- AFTER REMISEN # 10
荻野佐和子+小澤輝余子
1月27日(火)～2月4日(水)
本学西キャンパス A&Dセンター
- 第36回卒業制作展
2月24日(火)～3月1日(日)
愛知県美術館ギャラリー 10:00～
名古屋市民ギャラリー矢田 9:30～
本学西キャンパス 10:00～
- 第13回大学院修了制作展
デザイン研究科
2月24日(火)～3月1日(日)
愛知県美術館ギャラリー 10:00～
美術研究科
3月3日(火)～3月8日(日)
名古屋市民ギャラリー矢田 9:30～

人間発達学部

- 文化創造セミナー
12月13日(土)
北名古屋市民健康ドーム
- 芸大祭(全学同日開催)
10月23日(木)・24日(金)・25日(土)
本学東西両キャンパス

名古屋保育・福祉専門学校

- 進学相談会 10:00～
10月18日(土)
11月 8日(土)
12月 6日(土)
1月17日(土)
2月 7日(土)
- 学校祭
11月 8日(土) 10:00～
- 入学選考日
10月11日(土)・25日(土)
11月 9日(日)・29日(土)
12月13日(土)
1月10日(土)・24日(土)
2月15日(日)
3月 7日(土)

幼稚園(クリエ)

- 運動会
10月11日(土) 9:00～
- 親子でミュージカルを楽しもう
11月15日(土) 10:30～(予定)
- 発表会
12月13日(土) 9:30～
- ひよこ組
12月18日(木) 10:30～
- 造形展
1月25日(日) 9:30～
- 新入園児入園説明会
2月21日(土) 10:00～
- お楽しみ会
3月3日(火) 10:30～
- お別れ会
3月12日(木) 13:00～
- 卒園式
3月14日(土) 10:00～

幼稚園(満子)

- 運動会
10月5日(月)
- いもほり
10月20日(月)～27日(月)
- 作品展
11月8日(土)
- クリスマス会
12月12日(金)
- おもちつき大会
12月19日(金)
- 節分豆まき会
2月2日(月)
- 生活発表会
2月22日(日)
- ひな祭り会
3月3日(火)
- 卒園式
3月17日(火)

*予定は変更になる場合がありますので、事前にご確認ください。

編集後記

特集は音楽学部音楽総合コースを取り上げました。このコースは、音楽学部の演奏学科と音楽文化創造学科の多様なカリキュラムの中から、受講したい科目を自由に選択することができ、学生に人気のあるコースです。音楽を総合的に学びながら、より高い専門性を身に付けることも可能です。総合コースに在籍している学生達の生の声をお聞かせください。

芸術の総合大学として、本学は、その持っているノウハウや人材・資源を提供し、地元北名古屋市を始め近隣都市と産学官の連携プロジェクトを推進しています。今回、その一部をご紹介します。

地域社会に開かれ、貢献できる大学を目指しています。

ニュース&トピックスは、真夏のジャズイベント(NAGOYA GROOVIN' SUMMER 2008)『音楽学部』や小中学生とシニアの芸術体験イベント(一日芸大生)『美術・デザイン学部』、造形実技Ⅰの課外授業(羽島児童センターの壁面飾りつけ)『人間発達学部』などを取材しました。

本誌へのお問い合わせやご意見は下記のメールアドレスまでお寄せください。

geibun@nua.ac.jp



大学基準協会の 認証評価に合格しました

本学は2006年4月に、認証評価機関である大学基準協会の大学基準に適合と認定され、正会員になりました。認定期間は、2006年4月から2011年3月までです。これによって、法令化されている「第三者による認証評価」にも合格したことになります。



発行:名古屋芸術大学
編集:全学広報誌編集委員会
制作:(株)クイックス
発行日:2008年10月10日

【お問い合わせ先】
名古屋芸術大学 芸術文化交流室
〒481-8535
愛知県北名古屋市徳重西沼65番地
電話 0568-24-0325
Fax 0568-24-0326
E-mail geibun@nua.ac.jp